「大分大学地域創生シンポジウム」（ＦＤ／ＳＤ）事業報告

１．趣旨

本学は，平成２７年度「地(知)の拠点大学による地方創生推進事業（ＣＯＣ＋）」（地方大学が地域の各種機関と協働し，学生にとって魅力ある就職先を創出・開拓するとともに，地域が求める人材育成を推進する取組みに対し，文部科学省が支援する事業）への申請が採択され，教育プログラム開発，雇用創出，県内就職率の向上に関する取組を行っています。

ＣＯＣ+事業の大きな目標である「県内就職率＋10%以上増」に向かって、高大接続による県内高校生の入学促進、地域創生教育プログラムの充実等を含めた大学教育改革の推進が求められています。

ついては，大分大学教職員及び大学教育の支援や雇用創出を推進する県内企業及び自治体等が一堂に会し、地域創生の人材育成を進める大分大学の様々な取組の紹介を通して、今後の大学教育の方向性、産学官の協働、県内就職率向上の取組の推進等の協議を行うことを目的として開催しました。

２．事業名　　「大分大学地域創生シンポジウム」
～大分大学が地域に求められる大学になるために！～

３．主催：大分大学ＣＯＣ+推進機構

４．会場：大分大学 旦野原キャンパス　第１大講義室
※医学部にはインターネットによる同時配信

５．期日 ：２月２０日（月）１３：３０～１６：３０

６．対象
大分大学教職員　　協議会企業・自治体等
高等学校教職員　大分大学生
大分大学生等その他この趣旨に賛同する者

※参加者数　大分大学教員　54 名
ＣＯＣ＋連携校　6 名
協議会企業・自治体等　50 名
その他（大分大学職員を含む）　161 名
計　271 名

７．プログラム

（１）開会行事
北野正剛 大分大学学長挨拶

（２）基調提案
「大分大学が地域に求められる大学になるため地域創生教育構想」
越智義道 大分大学ＣＯＣ+推進機構長（大分大学理事＜教育担当＞）

＜提案内容＞

①「地域と企業の心に響く若者育成プログラムと大分豊じょう化プラン」の概要説明

・推進体制の概要と事業内容
・大分を創る人材を育成する教育プログラムマップ
②大分大学憲章と大分大学ビジョン２０１５
・大学改革「新たな組織への変革」
③地（知）の中核拠点としての大分大学の課題
◎大分大学における地域貢献活動あるいは地方創生人材育成事業（教育・研究）として組織化し，大学内外に対して積極的に情報発信を行う。
◎COC+事業の活動に関して，地域からの期待は大きく，具体的な地域連携事業推進体制の充実・強化を急ぐ。
④大分大学教育改革プログラム（～地域創生人材の育成の観点から～）と大分豊じょう化プログラムの構築構想

（３）大分大学生の地域貢献活動の事例発表
①「大分観光バーチャル体験プロジェクト」【県委託事業】
本年度から大分県の委託事業として県内各地で大学生が活動している取組みの一つで、竹田市での活動を濱口純花さんが報告した。（指導教員：工学部 古家賢一教授）。
②「利益共有型インターンシップ（地域豊じょう型）」【大分大学授業】
玖珠町で、地域の方と協働して行われている教養教育の授業での取組で、大浦貴史さん、下地美穂さんが報告した。（指導教員：工学部 石川雄一教授）
③「田舎で輝き隊」【大分大学授業】
経済学部が中心となって県内の地域の協力をいただきながら、教養教育の授業として他の学部の学生と一緒に行っている臼杵市での取組みで、河村健正さん、豊田幸歩さん報告した。
（指導教員：経済学部 松隈久昭教授）
④「見つけて！発信！地域の魅力 in 大分」
～つくつく創ろう津久見全開プログラム～【活き²プロジェクト】
大分大学の事業に応募した学生グループが自主的に地域づくりの取組みを行っており、留学生と一緒に津久見市の魅力発見の活動で、渡邉ひとみさんが報告した。
（指導教員：国際教育研究センター 南里敬三教授・金森由美講師）
＜その他＞
①大分大学「地域貢献マップ」の紹介
大分大学の学生及び教員の県内への地域貢献活動の状況調査を実施して作成した１２５テーマの「地域貢献マップ」を紹介した。次年度も継続して実施し、全学的な地域貢献マップを充実する。
②「大分の地域資源」などに関した、ビデオ等の報告
大分県の地域資源を学ぶ「大分の地域資源」の授業のために作成した映像のダイジェスト版を紹介した。

（４）大学教員と協力企業・自治体によるパネルディスカッション
◆パネリスト
小池楠男　大分県商工労働部雇用労働政策課 参事

小野晃正　大分市企画部企画課兼大分川ダム対策室 参事兼室長
平井慎一　株式会社 地域科学研究所 代表取締役 社長
望月　聡　大分大学副学長（教育改革担当）
松隈久昭　大分大学経済学部社会イノベーション学科関係教員
石川雄一　大分大学学長特別補佐（ＣＯＣ＋推進担当）

◆ファシリテーター
中川忠宣　大分大学ＣＯＣ+推進機構特任教授

＜討議の柱＞

第１ステージ：それぞれの立場として、今後、どんなことを考えなければならないのか、取り組む必要があるのかという点

第２ステージ：企業・自治体として大学教育に望むこと、大学としてそれぞれの立場から、企業・自治体に望むこと

第３ステージ：大分地域の創世のために取り組むべきとの提案

＜討議から出てきた今後の方向性＞

①大学での学びを地域や企業にオープンにしたり、アウトソーシングできる部分は積極的にアウトソーシングしたりする必要がある。

②大学と企業等が一緒に取組むシステムが求められており、具体的な内容を含めて、地域や企業からの提案が必要である。

③義務教育からを含め、企業等と一緒にキャリア教育を進めることが必要であり、大学においては、大分大学ＯＢ（同窓会）と大分大学のコミュニケーション（教員とＯＢ，学生とＯＢ等）を図ることが、学びを深めたり、県内就職への動機づけになったりに繋がる。

④大学教育を進める上では、高校教育から、大学卒業後の出口までを含めた教育プログラムが必要である。

⑤学生の立場から大分大学を見たとき、大学での学びや将来の職業等に関して、気楽に会話ができ、情報が得られるようなシステムがあること、そうした仕組みの情報が見えることが大切である。

⑥ＣＯＣ+事業は県内就職率向上と同時に、企業との協働や大学教育改革等々、様々な観点からの取組が求められており、ＣＯＣ+事業を１つのツールとして、情報の共有を行うシステムづくりが重要である。

①ニーズとシーズを繋げるために重要なことは、大学側にも企業等の側にもコーディネートを持つことが重要であり、そうしたシステムを作ることが、中長期的な取組に繋がる。

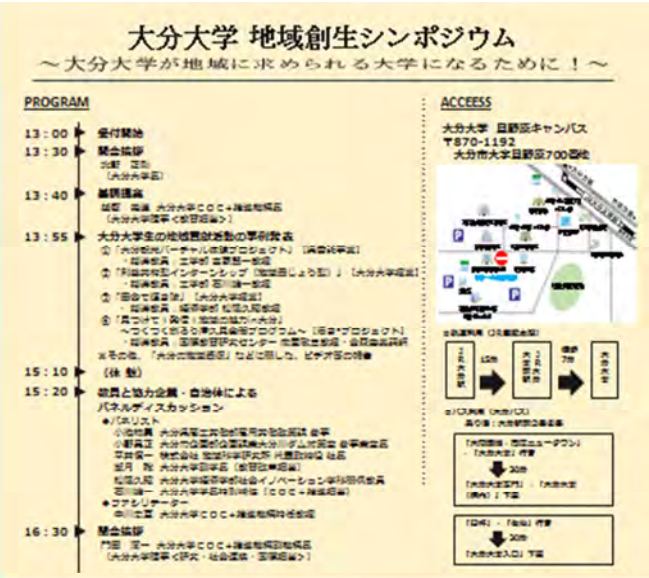
②教育を行う大学として企業等との協働システムを作るには５年～１０年単位の長期的な視点が必要である。

８．総括・閉会挨拶

門田　淳一　大分大学ＣＯＣ+推進機構副機構長

（大分大学理事＜研究・社会連携・国際担当＞）

９．ポスターセッション

学部	題目
教育学部	大分大学教育学部と大分市教育委員会との連携 「まなびんぐサポート」事業の活動と成果
高等教育開発センター	学習ボランティア『フォーバル』の活動
経済学部	・常識を覆す新たなチケットから“ワクワク”するサービスを生み出そう！ ～経済学部専門講義「ソーシャルイノベーションワークショップⅢ」～ ・大分県の木材と IoT で新たな生活スタイルを考える ～経済学部専門講義「ソーシャルイノベーションワークショップⅡ」～
福祉健康科学部	災害後の地域包括ケアシステムの構築にかかる研究 －「災害時家族避難手帳」の開発　－

＜参考資料＞